

学校通信

ひがしやま

第9号

発行日 令和7年5月12日(月)
発行者 別府市立東山幼稚園
別府市立東山小学校
別府市立東山中学校
校(園)長 谷川 芳明

○校長室での面談についてⅡ。

生徒との会話をいくつかご紹介。

- 1 昨年度と比べて、自分が成長した思うところは？(1)マイペースなところは変わらないけど、空気が読めるようになった。(2)考えて行動するようになった。
- 2 高校はうちの学校(東山)みたいなところにいきたい。
- 3 どんなクラス？(1)みんな仲がよい。独りぼっちがいない。(2)みんなが中心のクラス。
- 4 授業はどう？(1)先生が変わったら、生徒と会話がある授業になった。(2)面白いだけでは、学力が身に付かない。
- 5 開口一番「校長先生、顔がやつれている」と見透かされた第一声。さすがに看護師を夢見るだけのことはある。
- 6 面談終了後、生徒に「去年の面談の時よりも、たくさんしゃべってくれたね。うれしかった。ありがとうございます」

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

○大分県教育委員会の今年度の施策について。

●今年度の大分県教育委員会の事務事業で、県内小学校に登校支援員を新設(17人)及び県内中学校における登校支援員増員(48名→54人)を予算化。登校支援員とは、校内支援ルーム(登校ができるでも、教室には入りづらい子どもたちの校内での居場所)に配置し、子どもたちの「伴走者」(教員免許は不要)となる人たちです。ちなみに令和4年度は県内中学校に13人を配置していたことを思い出すと、成果をあげてきたのだろうと思います。

●令和7年度から「大分県教育庁遠隔教育配信センター」が稼働。臼杵高校、佐伯鶴城高校、日田高校、宇佐高校でも遠隔教育(同時双方向型授業、映像配信型授業、講義型一斉授業)が実施されます。メリットは、地元の高校に通いながら、難易度の高い問題に挑戦できる授業に参加できること。他校の生徒と一緒に授業を受けることで、同じ志を持った他校の生徒と交流ができること。遠隔授業以外にも、進学支援を受けることができること。教師不足や不登校児童生徒の増加の対策としても可能性があると思います。市町村教委にもシステムも含め、ノウハウを教示してくれるといいですね。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

○中学生の職場体験活動の実施について。

・職場体験活動は、キャリア教育の一環で、探究的な学習に取り組むことを通して、将来の生き方を考える学習の機会です。

市内の各中学校では、7月～9月に2年生を対象に実施します。

本校は2年生及び3年生を対象に8月27日(水)～28日(木)に実施します。